

テーマ	期末試験対策
-----	--------

1. 瓢箪山工場では、予算の作成に信頼うる基礎を提供し、かつ原価管理を効果的にするために、標準原価計算制度を採用している。次の資料に基づいて、差異分析を行いなさい。

〔資料〕

1. 年間予算データ

- (1) 製品の予算販売単価と年間予算生産・販売量

予算販売単価	¥19,000 円
年間予算生産・販売量	3,240 個

- (2) 製品1個あたりの標準製造原価

- ① 直接材料の標準単価と標準消費量

標準単価	¥800	標準消費量	10kg
------	------	-------	------

- ② 標準賃率と標準直接作業時間

標準賃率	¥1,500	標準直接作業時間	5 時間
------	--------	----------	------

- ③ 製造間接費

製造間接費は直接作業時間を基準として標準配賦される。なお、製造間接費には公式法変動予算を設定しており、変動費率は 1,200 円/時間、年間固定費予算額は、¥19,200,000 である。また、年間の基準操業度は 19,200 時間である。

- (3) 販売費および一般管理費年間予算額 ¥11,520,000

2. 当月実績データ

当月の実際生産・販売量は 270 個であり、原価要素ごとの実際発生額は以下のとおりであった。

- ① 直接材料の実際単価と実際消費量

実際単価	¥750	実際消費量	2,750kg
------	------	-------	---------

- ② 実際賃率と実際直接作業時間

実際賃率	¥1,620	実際直接作業時間	1,450 時間
------	--------	----------	----------

- ③ 製造間接費実際発生額 ¥3,200,000 円

直接材料費総差異	円	() 差異	製造間接費総差異	円	() 差異
価 格 差 異	円	() 差異	予 算 差 異	円	() 差異
数 量 差 異	円	() 差異	変動費能率差異	円	() 差異
直接労務費総差異	円	() 差異	固定費能率差異	円	() 差異
賃 率 差 異	円	() 差異	操 業 度 差 異	円	() 差異
時 間 差 異	円	() 差異	標準製造原価差異	円	() 差異

テーマ	期末試験対策
-----	--------

2. 次の資料にもとづき、全部原価計算と直接原価計算による損益計算書を作成しなさい。

〔資料〕

(1) 当月の生産・販売量

月初仕掛品	0 個	月初製品	0 個
当月投入量	700 個	当月完成量	700 個
合 計	700 個	合 計	700 個
月末仕掛品	0 個	月末製品	140 個
当月完成品	700 個	当月販売量	560 個

※製品販売価格 @¥3,500

(2) 原価データ

- ① 直接材料費（すべて変動費） ￥392,000
- ② 直接労務費（すべて変動費） ￥448,000
- ③ 製造間接費 変動費 ￥280,000 固定費 ￥560,000
- ④ 販 売 費 変動費 ￥140,000 固定費 ￥168,000
- ⑤ 一般管理費（すべて固定費） ￥196,000

損益計算書（全部原価計算）

I. 売 上 高		()
II. 売 上 原 価		
1. 当月製品製造原価	()	
2. 月 末 製 品 有 高	()	()
売上総利益		()
III. 販売費及び一般管理費		()
営業利益		()

損益計算書（直接原価計算）

I. 売 上 高		()
II. 変動売上原価		
1. 当月製品製造原価	()	
2. 月 末 製 品 有 高	()	()
変動製造マージン		()
III. 変動販売費		()
貢献利益		()
IV. 固 定 費		
1. 固定製造間接費	()	
2. 固 定 販 売 費	()	
3. 固定一般管理費	()	()
直接原価計算の営業利益		()
(+) 期末分の製造固定費		()
(-) 期首分の製造固定費		()
全部原価計算の営業利益		()

